

### 一般質問(要旨)

## 第2回定例会の主な日程

平成20年第2回定例会県議会は、概ね以下の会期日程で開催されました。

6月5日(木)

本会議

開会后、議案が上程され、知事から提案理由の説明が行われました。

6月10日(火)・11日(水)

本会議

議員6名が県政の諸課題について質問を行いました。

6月12日(木)

常任委員会

付託された議案などの審査を行いました。

6月16日(月)

調査特別委員会

安心できる食の確保や提供等に関する調査特別委員会を開催し、調査を行いました。

6月17日(火)

調査特別委員会

財政再建等調査特別委員会を開催し、調査を行いました。

6月18日(水)

本会議

議案等の採決などを行い、閉会しました。

### ●質問者

森田 悦男

(自由民主党)

青山 大人

(民主党)

石田 進

(自由民主党)

荻津 和良

(自由民主党)

小池 忠

(自由民主党)

山岡 恒夫

(自由民主党)

### 県議会を傍聴しませんか

本会議は、特別の場合を除き、誰でも傍聴できます。傍聴を希望される方は、県議会議事堂の傍聴受付で傍聴券を受け取って入場してください。

詳細について知りたい方は、県議会事務局議事課にお問い合わせください。

お問い合わせ先 電話 029-301-5634  
FAX 029-301-5629

### 県民モラル向上対策の早期着手は 迷惑行為などには早めに対応する

議員(自民) 自分本位な行動の横行を傍観せず、県民モラル向上のため現段階でできる具体的な取り組みから着手すべき。各部署から事業を選定し統一キャンペーンとして実施してはどうか。また、身障者用駐車場利用証制度の導入やモデル地区の選定、市町村と連携した施策展開なども提案する。

すべきと思うがどうか。  
知事 印鑑管理や出納事務の確立体制などを改善し、公金管理の仕組みを見直すよう近日常に改善命令を行う。市町村との人事交流や指導監査の強化も行っていく。(ほかに消費者行政の推進、学校裏サイトへの対応、宇都宮線・常磐線の東京駅延伸なども質問)

議員 四月発覚の県国民健康保険団体連合会不祥事で県民が最も驚いているのは、約十一億円の着服を三年間発見できなかった組織の問題である。監査の徹底にとどまらず、公金管理の仕組みを抜本的に見直すよう指導



パーキングパーミット(身障者用駐車場利用証)制度で迷惑駐車を防止

### 輸入食品の安全対策は 北関東三県で検査情報を共有化

議員(民主) 輸入食品に対する不安が高まっている中、安全対策を強化する必要がある。しかし、一地方自治体で行う食品検査には限界があるため、自治体間で検査情報の共有化を図って効率的・効果的な対策を行うてはどうか。



輸入食品の検査(県衛生研究所)

保健福祉部長 検査時期をずらしたり対象食品を分担してデータを共有することは、各県単独で行うより効果的な検査につながる。北関東三県での協議の場で、検査情報の共有化、情報交換のあり方、統一的な検査方法などの検討を行い、食品の安全対策に努める。

警察本部長 関係機関へ広範・迅速な情報伝達を行い、情報を受ける窓口の一本化や夜間休日体制など連絡網の整備をする。また警察官の実践的訓練を実施し、治安に対する信頼回復に全力を尽くす。(ほかに、常磐線の東京駅乗り入れ、放課後児童クラブの充実、アライグマ防除実施計画なども質問)

### 茨城産ピーマンブランドの確立策は 積極的なPRに努めブランド化を支援

議員(自民) 全国一の生産量を誇るピーマンについて、メディアを積極的に活用したPRを行っていくべき。日本一のピーマンブランドの確立に向け、どう茨城産ピーマンのPRに努め、全国ブランドとして育成を図っていくのか。

地元小売店等へ提案するなど、商品開発を支援していく。これらの取り組みを着実に進めたいうえで、全国的なブランド展開や販売促進などについても検討していく。(ほかに、地域資源を活用したスポーツによる新しいまちづくりなども質問)

知事 テレビ番組「おはよう茨城」の視聴者プレゼントとして、ピーマンを提供したり、「ラジオ県だより」の活用や各種広報誌への掲載など、産地と連携しながら、積極的なPRに努め、茨城産ピーマンのブランド化を支援していく。

議員 鹿島灘産ほっき貝の新商品開発に対する支援やPRに取り組み、全国的なブランド展開と販売促進を図っていくことが必要では。農林水産部長 水産加工品の試食会等で、ほっき貝を積極的に活用していくとともに、水産試験場において、ほっき貝の新たな加工方法や料理メニューの試作を行い、



都内量販店の青果売場に並ぶ本県産ピーマンなど